登城・散策の注意!

京極氏館は国が指定した大切な史跡です。見学の際に石垣や土塁などの遺構を壊さないよう注意してください。地面を掘り起こしたり、火を使うこともご遠慮ください。

伊吹山には、ツキノワグマが生息しております。近年、ふもとの集落でクマの目撃情報が相次いでいます。危険ですので複数人での散策・登城をおすすめします。クマやシカ・イノシシにあわないよう、鈴・ラジオなど音の出るものを携帯し、人が山に入っていることを知らせるようにしてください。
また、ヒル・ハチが出ることがあります。ヒルは、肌の露出を少なくし、ヒル避けスプレーを足もと、首筋などに吹き付けるなどの対策を各自でお願いいたします。ハチは黒いものを攻撃する性質があります。また匂いに刺激され攻撃します。白色系の帽子をかぶり、香水など匂いの強いものは控えてください。

京極氏館へのアクセス

【公共機関】JR近江長岡駅下車。交通の便が悪いため、タクシー利用約15分。
【自家用車】関ヶ原ICより約10分、長浜ICより約15分。上平寺集落内に駐車場あり。
麓から山城まで徒歩1.5km約50分。弥高集落から弥高寺を経由する道もある。

発行元　米原市教育委員会 TEL.0749-55-4552 FAX.0749-55-4040

米原のお城に登ってみよう!!

京極氏館 国史跡 トレッキングマップ

『上平寺城絵図』
絵図と見比べてみよう！

御自愛泉石
庭園を眺めながら
宴会や儀式を行ったよ！

埋蔵文化財公開活用事業

京極氏の歴史

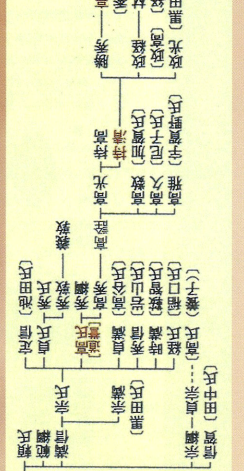
京極氏は、宇多天皇を祖とする宇多源氏で、もともとは佐々木氏と呼ばれていましたが、佐々木氏は近江守護職を世襲していましたが、仁治2年(1241)、佐々木信綱のあとを継いだ大原氏・高島氏・六角氏・京極氏の四氏に分かれます。

京極氏は、四男氏信が愛知川以北六郡を与えられ、京都の京極高辻に屋敷を構えて「京極氏」を名乗ったことに始まります。北近江では柏原(米原市)に館を構えました。

京極持清の代に隆盛を極めますが、持清の死後一族内に争いが起こります。持清の孫の高清が明応元年(1492)内紛を収め、政権を確立したことで、北近江の守護所として上平寺に館を構えます。同時に、山腹の上平寺城・台地上の家臣団屋敷群とともに、城下町を整備したと考えられます。

大永3年(1523)、浅見氏ら国人の攻撃で、高清が尾張に逃われたいわゆる「大古寺梅本坊公事」以降、北近江では家臣の浅井氏が台頭し、北近江の覇権は浅井氏へと移っていきます。

その後、京極高吉の子高次が、織田信長・豊臣秀吉に仕え、妾退していた京極氏の復興を果たすとともに、関ヶ原の戦いでは、大津籠城により、東軍の勝利に貢献しました。その軍功により、京極高次は若狭小浜藩主となり、弟高知は丹後宮津藩主として江戸時代をむかえました。


京極氏
宗綱―高氏
満信―範綱
宗氏
満綱―宗綱
(黒田氏)
京極(黒田氏)
貞満―秀満
(高宮氏)
秀満―秀頼
(宮川氏)
秀頼―時満
(柏原氏)
経忠(柏原氏)
(蒲生氏)
(高野氏)
(多賀氏)
(佐々木氏)
(中村氏)
(高氏)
(蒲生氏)
(佐々木氏)
(多賀氏)
(高野氏)
(中村氏)
(黒田氏)
(高

御屋形跡 おやかたあと

御屋形跡は、京極氏が日常生活や政務をおこなっていた場所です。

庭園に近接する部分で、直径20～50cmの礎石を約30点検出し、礎石の配列から、束柱が良好にのこる縁のまわる建物と、これと並行する小規模な建物の2棟を確認しました。

建物周辺では宴の杯や燈明皿として使われた土師皿が大量に出土しており、宴や儀式をおこなう会所的建物だったと考えられます。

京極氏庭園跡

この庭園は、背後の山や渓谷を借景に取り込んだ池泉観賞式庭園で、山裾には枯滝と思われる石組があり、水分石などの景石が配されています。

また中央の低い築山には、「虎石」と呼ばれる巨石があります。一説には、この巨石は蓬莱思想を示す「鶴石」や「亀石」であったともいわれています。

さまざまな宴や儀式がおこなわれたであろうこの庭は、大永3年(1523)の館の終焉とともに長い眠りにつきました。

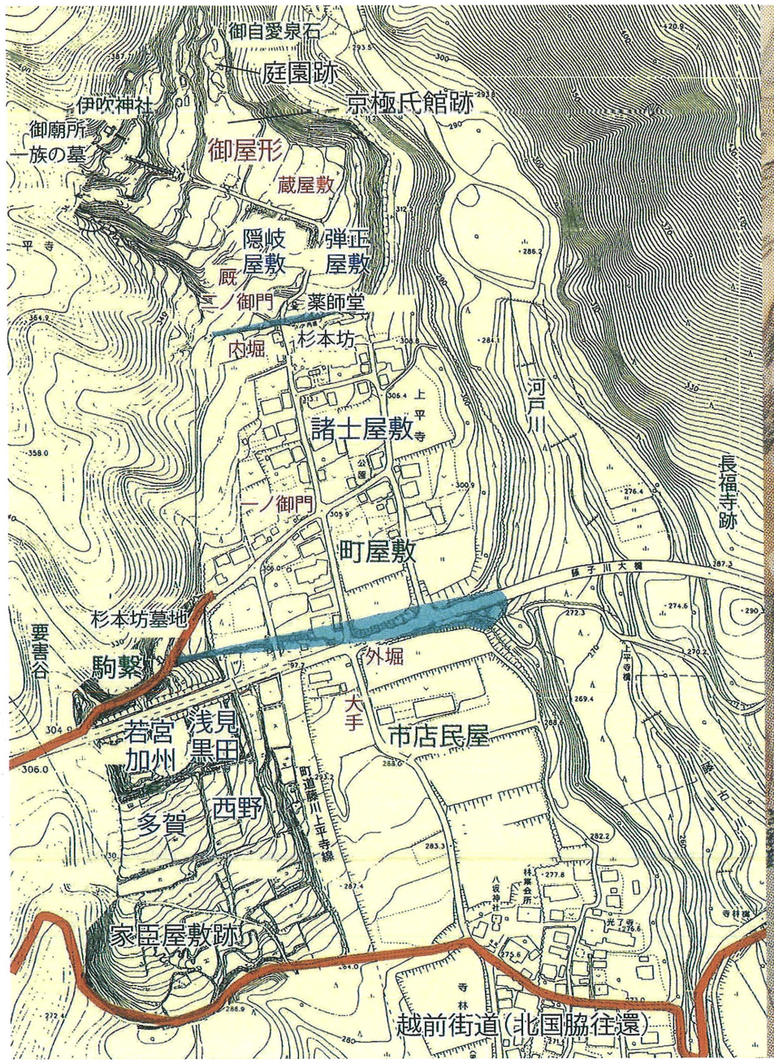
京極氏館のみどころ

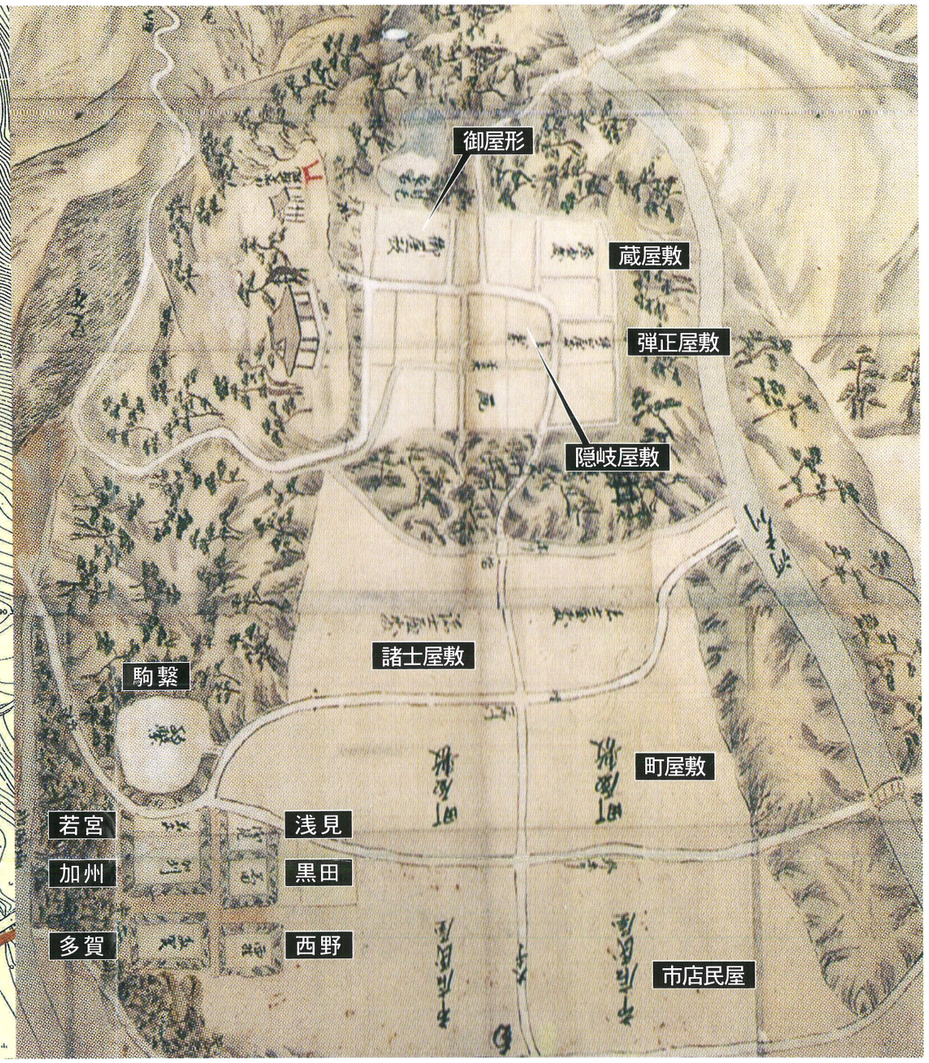
永正2年(1505)、ながく続いていた一族の内紛を日光寺(米原市日光寺)の講和でおさめた京極高清は、山岳寺院・上平寺を改修して守護居館を築きます。

『上平寺城絵図』を見ますと、庭園を伴った京極氏の屋敷(御屋形)、一族・重臣の隠岐屋敷や弾正屋敷(大津屋敷)、蔵屋敷といった建物が建ちならんでいたようです。

庭園は、池泉観賞式庭園で、庭園を愛でながら宴や武家の儀式がおこなわれました。

京極氏館の庭園は、類例の少ない戦国時代の武家庭園のなかで、作庭時期が判明する貴重な名園で、石組み構成の美しさを見せます。





家臣屋敷跡

絵図には、城下の南西(高殿地区)に若宮・加州・多賀・浅見・黒田・西野の屋敷跡が記されています。いずれも北近江各地に拠点をもつ一族や有力家臣達です。越前街道や要害谷を見下ろす尾根上の防衛拠点で、現在でも、三方に土塁を巡らせた方形の屋敷地が整然と並んでおり、計画的に造られたことを物語っています。

高殿地区の発掘調査では、建物の礎石や石組溝、屋敷を区画する石垣のほか、城下への入口にあたる砂利敷きの堀底道、土塁などが見つかりました。

京極氏一族の墓

伊吹神社境内にある京極氏一族の墓所には、3基の組み合わせ式五輪塔と2基の一石五輪塔があります。組み合わせ式五輪塔1基には「浄光院殿芳室宗口大禅尼　永正5年(1508)四月七日」の銘が刻まれています。

上平寺は京極高清の菩提寺で、絵図にも「御廟所」の記載があります。いま徳源院(米原市清滝)にある高清の墓ももとはこの地にありました。寛文12年(1672)、丸亀藩主京極高豊が京極家の菩提寺である徳源院を復興し、三重の塔の建立とともに、付近に散在していた歴代の宝篋印塔を集めており、このときに持ち出されたと考えられています。